



『経鼻栄養チューブの選び方』

当院では従来8Fr・12Frを使用していましたが、昨年6.5Frを採用しました！

6.5Frの特徴

メリット

細いため不快感は少ない
嚥下練習しやすい
誤嚥性肺炎になりにくい

デメリット

使用できる栄養剤に限られる
とぐろを巻きやすい
内服薬が詰まりやすい
(ベリチーム・ランソプラゾールは禁)

経腸栄養に並行して、嚥下訓練も行う場合はこの6.5Frはとてもおすすめです！

従来使用していた太いチューブは不快感もあり、
誤嚥性肺炎になりやすく、デメリットばかりかと思われがちですが・・・

メリットとして

- ハイネイーゲル(胃内でゲル化する)や
エコフロー(とろみつき)が使用出来る。
- 粘度があると逆流しにくく誤嚥性肺炎を
起こしにくいとされている。
- 注入時間が短縮でき、看護側・患者側ともに
負担軽減につながる。

胃は、食物などの固形物が入る
ことで蠕動運動を開始し、食塊
を混和し、十二指腸に排出する
機能をもっています。
つまり、栄養剤を半固形化して
投与することで、胃の生理的な
貯留・排出機能が起こるので

患者の状態に合わせて、チューブの選択が必要です。

ぜひ、参照してみてくださいね！

6.5Fr経鼻胃管チューブを使用の際は栄養管理部にご連絡ください。

NSTへのお問い合わせは栄養管理部またはリンクナースへ
(栄養管理部PHS：913・970)